



学校だより 神橋

令和2年8月31日
横浜市立神橋小学校

9月号

「倍返し」しない勇気

校長 末松 隆一郎

暦の上では立秋も過ぎ、「寒蛸鳴(ひぐらしなく)」季節。まだまだ暑さ厳しい日は続くものの、その「寒蛸(ひぐらし)」も、かなかなかなど、まもなく去り行く頃を迎えます。

短い夏休みも終わり、校舎にも子ども達の元気な声が帰ってきました。熱中症と感染予防の両対策の中、活動の制限は種々ありますが、過ごしやすい季節へと向かう中で、神橋小らしい教育活動を創造していきたいと思えます。前期後半もよろしく願います。

テレビを観る機会が多くなった昨今ですが、人気ドラマ「半沢直樹」の第2シリーズが始まり、前作に劣らぬ高視聴率を出しているようです。楽しみに観ている方々も、たくさんいることと思えます。もちろん、「ドラマ」としては傑作ではありますが、私は一抹の不安の記憶が想起しました。



それは、前作が大ヒットし、キャッチコピー・主人公の決め台詞である「やられたらやりかえす。倍返しだ!」が社会現象的に流行し、その年(2013年)の「新語・流行語大賞」に、「じえじえじえ」「お・も・て・な・し」らとともに選ばれた時のことです。当時いた学校で、子ども達がトラブルになった時、また何気ない会話の中でも、「やられたらやり返す!」「倍返しだー!」という言葉がそこ

かしこから耳に入ってきました。私が懸念したのは、子ども達の中でこの言葉が一つの「価値」として根付いてしまうのではということです。善悪がはっきりし描かれているドラマなどの中では理解できるのですが、現実の社会の中でこの言葉の一人歩きに不安を覚えたものです。そんな思いを抱えている中、一つのニュースと、一本の映画に出会いました。それは、南アフリカの元大統領であるネルソン・ホリシャシャ・マンデラ氏の逝去(2013.12.5)と、米大リーグ史上初の黒人大リーガー、ジャッキー・ロビンソンを描いた映画「42～世界を変えた男」(2013年公開)です。

マンデラ元大統領は、南アフリカにおいてアパルトヘイト(人種隔離政策)撤廃に尽力し、27年間にわたる囚人生活後同国大統領に就任。民族和解、協調政策を推進し、ノーベル平和賞を受賞した方です。就任後のスピーチは、世界中に驚きを与えました。仰圧され続けていた黒人は仕返しの狼煙(のろし)を期待し、白人は戦々恐々とする中、マンデラ氏から発せられた言葉は「報復(仕返し)」ではなく、「輪(許容・和解)」でした。報復・対立ではなく「融和」を訴える姿勢は、その後政策化され、多くの国に影響を与えています。



2013年公開の「42～世界を変えた男」は、大リーグ初の黒人プレーヤー、ジャッキー・ロビンソンを描いた伝記映画です。人種差別によるファンやマスコミ、チームメイトからもの非難中傷を浴びながらも、自制心を貫き、そのひたむきなプレーと姿勢に、次第に周囲の心が一つになっていく様子が描かれています。その中に、当時ドジャースのジェネラルマネージャーだったブランチ・リッキー氏のこんな言葉があります。

「悪口を言われたら、悪口を言い返す。殴られたら殴り返す。そんなのは勇気のある行為などではない。本当の勇気ある行動とは、暴漢に対して、自分も暴漢になることなどではなく、暴力を自ら振るわずに相手の間違った考えを改めさせる行動にできることだ。」

紹介させていただいた二つの実話、それはともに「仕返ししない勇気」は、やがて周囲を変え、世界をも変えていく力になることを私たちに教えてくれていると思えます。「憎悪の輪は、どこまでも続いてしまう」ということも。

「コロナ渦」と言われる昨今、人と人との距離を開けることが「正」となる今だからこそ、人と人との心の繋がり、それを支える優しさと憎悪を生み出さない本当の勇気が必要な時代なのではないでしょうか。学校から、ご家庭から、そして地域から広げ繋げていけたらと思えます。